



七月の俳句

(2 0 2 2 / 0 7)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
13	7	1
）	）	）

7月の他の別名

文月・女郎花月・建申月・親月・七夕月・桐月・
七夜月・初秋・文披月・愛逢月

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

夏椿ガラスに飾り涼をを呼ぶ
浮気せず白花だけの夏椿
隣屋の咲きつぎ今朝の沙羅の花
沙羅の花ぼつりと落ちる刹那かな
沙羅の花水滴ひとつ花落とす

昼顔が格差社会に咲いている
まん丸を少し崩して昼顔や
昼顔は浜の微風に敏感に

梅雨夕焼け時には空を和ませて
梅雨終わりにビニール傘が貯まりけり

雲海が朝日を浴びて竹田城
断捨離は一時悲しき忘れ草

夕立がされど彷徨ふ池袋
夕立に一気に歪む池袋



夕立の打ちたる瀬戸にタンカーが
夕立や致しかたなく諦める

寝返りを数えきれずに夏の夜
夏の夜の何時もの夢の無人駅
夏空やエイサー太鼓新宿に

海開き祝詞よとどけはるか沖
のうぜんラッパ散るとき散る日かな

池袋中華街にも梅雨の月
少しずつ洗濯たまり梅雨末期

雷鳴が縦横無尽に襲い来る
ずぶぬれてあの日青春雷雨かな
政治家をこらしめるごと雹の玉

太陽が好きか嫌い
か睡蓮は



吾もまた睡蓮ごとき眠りたし
祇園祭裏側にある格差かな

シヤンソンも久しく聴かずパリ祭
パリ祭新宿バーに孤独あり

蟻の搔く玉の汗など見えもせず

酔っ払い一匹交じって蟻の列

蟻眺めこれも人生咀嚼する

蟻の列働き方の改革は

蟻の列格差無縁に働いて

吾走るいざ鎌倉と蟻走る

差別あり棘があるから悪茄子

善悪はマスコミ次第か悪茄子

分断と混迷社会茄子に棘

憲法九条生ゴミにはイエバエが



憲法九条猛暑日ばかりすべもなし

百合の花合唱きれいに口そろえ
山百合の花重たげに耐えにけり
雨打たれ耐えてこらえて山百合や

鬼百合は時に黄金されど鬼
ランタンを灯して孤高鬼百合や
鹿の子百合ピンク装い鬼変化

池袋ホームから見る夏の月
教育論堂々巡り夏の月
サンシャイン走る流れる夏の月

暑き日に着物ぴしりと茶室かな
暑き日は喜怒哀楽が顔に出る
干からびて脳もカラカラ酷暑かな



また今年入れ歯新調
蝉時雨
櫛並木オーケストラの
蝉時雨
櫛並木音量全開
蝉時雨

夕立に謎に艶めく紫御殿
雷雨にも紫御殿艶めいて

夏蝶は五百羅漢なんとみる
夏の蝶町内会の清掃日
人もまた夏蝶もまた孤独死か
揚羽飛ぶ幾何学どこで学びしか

サーファーは浮世絵ごとき波滑る
断捨離は遅々と進まず雲の峰
柿の葉を叩いて強し夏の雨

弱冷房終着駅まで深寝入り
ダリアにはダリアの気品
ダリア咲く





草いきれ命すさまじ地球かな
夏草や道開けゆく真つ青に
我が庭は自由奔放草いきれ
草いきれ普通に二人夫婦かな
かつと咲き電力不足赤ダリア
脱原発電力不足熱帯夜



モーロク俳句

花鳥瓜モーロクすれば他人ごと

モーロクしめげて諦め半夏生

モーロクし食べすぎ注意半夏生

半夏生されど早寝やモーロクし

モーロクしされど挨拶半夏生

モーロクし金魚が仲間それでよし

モーロクし声もおほきく金魚玉

まどろみの覚めてモーロク合歓の花

モーロクし無駄な一日時計草

睡蓮の花を数えてモーロクす

モーロクし短冊不要七夕や



モーロクし願いごとなく七夕や
モーロクし泥船でよい星祭
願うことばかりモーロク七夕や
七夕も睡りむさぼりモーロクす

モーロクしのうぜんの花散る日かな
モーロクし生きる術など日日草

モーロクし素麺二束ペロリかな
素麺も喉につかえしモーロクし

モーロクし吾を許さず心太
モーロクし嘘が膨らみ心太

蓮の花三日四日でモーロクし
モーロクし挫けやすくて雨蛙

モーロクし一匹の蚊と遊びけり



モーロクし蚊一匹を追い回し

モーロクしこころ昏れ灸花

モーロクし灸は無理と灸花

モーロクし差別無縁の屁糞葛

モーロクしジョークわからず仏桑華

モーロクし思い届かぬ仏桑花

モーロクしハイビスカスは遠い花

モーロクし念力届かぬ仏桑花

モーロクし夢から醒めて仏桑花

モーロクしからつぽになる夏野かな

モーロクし真昼の睡魔熱帯魚

炎天のミミズ玉砕モーロクす

鬼百合のあばたを愛でるモーロクし



モーロクし体溶けゆく昼寝して
昼寝覚めこはどかかとモーロクし
モーロクしひたすら昼寝あばら骨
昼寝して少し縮んでモーロクす
モーロクし魂抜けて大昼寝
モーロクし人間失格昼寝する

梅干され魂干されモーロクす

暑き日の喜怒哀楽やモーロクし
モーロクし脳も干からび酷暑かな
モーロクしだんだん縮む暑さかな
モーロクし飯粒を肘に大暑かな
瞑想のあとモーロク大暑かな

河童忌と聞いてなんだとモーロクし

忘れ草忘れ残りてモーロクす



モ一ロクし憂い忘れ忘草
モ一ロクし憂い忘れ花もあり

モ一ロクし融通きかぬ扇風機

モ一ロクし断捨離遅々と雲の峰
モ一ロクしつまらない意地雲の峰

モ一ロクし不要夏の雲

肩肘を張ってモ一ロク夏の雲

モ一ロクし昔の立志雲の峰

モ一ロクし誰に従う雲の峰

モ一ロクし子など忘れて雲の峰

モ一ロクし世の荒波に立泳ぎ

モ一ロクし持て余したるかき氷

かき氷こぼしこぼしつモ一ロクし

かき氷ひたひたとなるモ一ロクし





モーロクしされど夏越し肉弁当
モーロクしさいつの間寝た夏の夜
モーロクしうば捨て山や夏の山
モーロクし暗闇ばかり夏の夢
モーロクし弱音押し込め夏の雨



たべもの俳句

青じその香りたつぷりしそパスタ
ちらし寿司サーモンちらし半夏生

たつぷりとオクラネギだれ焼き肉丼

ズッキーニ炒めて添える肉を焼き
ズッキーニ輪切りスライスナムルかな

㊦級のえびチャーハンで夏の昼
カレー蕎麦満足顔に玉の汗

山形の「だし」夏野菜刻むだけ
小顔かな目は黒々の鰯選ぶ

そうめんに缶つま添えてごちそうに



意味もなく気持ち昂揚冷素麺
素麺にたつぷりぶっかけ生姜焼き

トマト切りしらすに大葉酢の物に

味噌汁もゴーヤチャンプルほろ苦く
夏野菜いろいろ加え豚汁を

ピーマンのピリ辛ナムルおつまみ風
ピーマンの肉詰め破裂お弁当

じゅんさいを名物として都人
夏大根たつぷりおろしもり蕎麦に

夏大根生姜たつぷり豚バラ煮物
ココロにきゅうり角切り梅ひじき

あずきバーあずきの粒をしゃぶりけり



玉葱を炒め炒めてカレーかな

苦きもの飲んで笑うや生ビール
血圧が高しどうした缶ビール

雷雨にも慌てず我が家の生姜焼き
とろとろの豆腐ソースで冷やうどん

ひんやりと冷やし焼き芋夏の朝
血圧を一時忘れて冷やし酒

田舎捨て田舎懐かし冷奴
田舎者醤油たっぷり冷奴
冷奴永久不滅日本人

汗垂れてモツ喰ふ大衆酒場かな
熱中症予防言い訳塩羊羹
ズッキーニ豚巻き巻きにこってりと



ふわふわの鶏つくね串ビールかな
ゴーヤゆでゴーヤごま和えほろ苦く





